

情報ネットワーク社会における文化差

—中国語圏から生活文化の一考察—

Cultural difference on information network society

陳 怡廷 yi-ting CHEN

慶應義塾大学政策・メディア研究科

Keio University Graduate School of Media and Governance

桑原 武夫 takeo KUWAHARA

慶應義塾大学総合政策学部

Keio University Faculty of policy Management

要 旨

同じ中国語圏にも属していても、中国大陸と台湾では、異なる政治体制、メディア環境などの諸要素によって、現れる社会的表象に違いがあることがわかっている。では、ネットワーク社会においても、同様に文化によって異なる違う生活風景が呈されているのであろうか。本研究では、この点を探求する。このため、コミュニティ・サイトを通じて、二つの社会におけるコミュニケーション内容を比較し、「解釈的現象学」へのアプローチを用いて、テキストに内包される社会的な意味現象を考察し、独特な生活文化や多元的な社会現象を解明することを試みる。

Abstract

In Chinese-speaking countries – such as Mainland China and Taiwan – even though they share a common language, due to the differences in each country's political establishment and media information, different symbols used in the societies respectively. This research examines the ways to explore social reality and social current of the cross-culture through network of community sites. By using the Interpretive Phenomenology approach, the context of Chinese community of network reveals the differences in the present condition and social phenomenon between China and Taiwan, and is further explored to full extent.

1. はじめに

中国語圏とは、主に中国語（標準漢語 Mandarin Chinese）⁽¹⁾が使われている地域であり、中国大陸、台湾、香港、シンガポールなどが代表的である。同じ中国語圏に属する国や地域には、それぞれに異なる政治体制、メディア環境などの諸要素があり、これによって現れてくる社会的表象（生活文化、社会的潮流、イデオロギーなどを含む）も異なっている。地理的、歴史的、文化的に非常に関係が深く、同じ経済圏に属している中国大陸と台湾でさえ、対立の政治問題は言うまでもなく、生活文化的な事象についても相当なギャップがある。「男性の家事参加」を事例としてその違いを見てみよう。2000年半ばに、双方の男性を対象に「男性は、家事を分担すべきか？」をたずねた調査があった（E-ICP 台湾& CMDB 中国大陸, 2000）。全体的に「すべき」と思った中国大陸の男性は約 30%であり、年齢が高いほど家事参加をすべきという認識が高くなる傾向があった。中国大陸の上海では、家事をするのは男性の仕事であり、炊事、洗濯、掃除、さらには育児まで担当している。ところが、地方によっては、「男は仕事、プラス家事」という認識も少なくない。一方、台湾の男性は「すべき」と思うのが人の比率 15%にしか達していなかった。特に、台湾日本統治時代に、日本教育を受けた世代の子供として生まれた中高年男性には、「男は仕事、

女は家庭」という性別役割分業の考え方が根を張っており、「男女分業」、「亭主関白」という考えを抱いている人が多いと指摘されている（陳, 2002）。

近年、インターネットの普及とともに、中国語圏の人々同士は、言語がコミュニケーションの障害とならないため、手軽にパソコンを通し、他国における社会の様々な事情を理解したり、生活情報を取得することができるようになった。こうして、中国語ネットワークは国境を越えて世界中に広がっており、新たな中国語圏の「エリア」が形成されつつあると考えられる。現実の生活文化面では、中国語圏の国や地域の間で相当なギャップがあることはよく知られているが、ネットワーク社会の諸相についてはどうであろうか。現実のように異なった生活風景が呈されているのであろうか。

この点を明らかにするため、本研究では、中国大陸と台湾におけるコミュニティ・サイトを観察し、両地域のコミュニケーション特性を検討して、それぞれのテキストに内包されている社会的な現象の意味を考察することにする。いわば、「他者」「間主観性」⁽²⁾と「文化相対主義」⁽³⁾の概念を用いて、さまざまに異なる文化と社会を相互理解の視点から捉えることを目指すものである。異文化の社会現象を探るため、インターネットを通じ、社会的コンテキストに結びついた主観的意味を解釈することで、コンテキストを動機的に理解し、社会現象の解明する

試みともいえる。具体的には、解釈的現象学へのアプローチを用いて、ネットワークのさまざまな生活場面を解釈したり、意味づけられる社会的リアリティ⁽⁴⁾を理解する。そして二つの社会におけるネットワーク社会の相違を明らかにすることを旨とするものである。

2 解釈的現象学へのアプローチ

上記の研究目的のため、ネットワーク社会に接するアプローチへの方法論をまず明確しておこう。このため、解釈的現象学の相關概念や先行研究を検討し、それに関わる研究方法を整理しておく。

2.1 解釈的現象学の概念

近年、多元化社会への進展とともに、社会学における意味現象の徹底的な考察、日常生活研究やヒューマニスティック・パースペクティブに道を開いた現象学的社会学は、ますます注目を浴びている。それは、日常的な世界経験を通じて人間と世界を統一的に記述したり、理解したりしようとする現代社会学の一つの視点である。その中には、より科学的なアプローチとみなされ、種々の研究分野に応用されているものとして「解釈的現象学」(interpretive phenomenology)をあげることができる。解釈的現象学とは、ハイデッガー(Heidegger)がフッサールの現象学に基づいて、人間が普通に操る言語によって位置づけられた、言語を中心とする人の精神的、内面的なさまざまな表出の解釈(interpretation)を組織的に展開する方法である。

2.1.1 経験内容の「エピファニー」

それに最も深く関わっているのは患者の意味世界に接する看護や臨床心理学に関わる研究分野である(Bleicher,1980;Aamodt,1983;Cohen,1995;Denzin,1987a)。看護や臨床心理学においてよく使われる研究方法は、ある「場」(病室、カウンセラーセンターなど)において、患者が自ら病気に関する経験を通して浮かび上がらせ、語られた内容から、研究者はその経験内容の「エピファニー」⁽⁵⁾(epiphany)を見つけ出して、患者の行為や行動に影響を及ぼす主な出来事ないし原因を解明するというものである。元来、エピファニーは「神の出現」のことを指し、キリスト教の歴史の中では最も重要な「サイン」と見なされる。現在では、事件や経験過程を再現するときに、最も記憶が深く常に瞬時に浮かび上がった光景や場面、またはその結果や方向に導く幾つの肝要な箇所として意味づけられる(Denzin,1989)。ちなみに、看護や臨床心理学においては、患者らから数多く語られたエピファニーによって、病症を結びつけ、その病気の傾向性を理解する。

2.1.2 関連先行研究

また、社会学においてもこのアプローチが用いられている。例えば、インタビューの手法を通して語られた消費経験から、消費者の内的な表象、価値観を再現するといった方法である。それは、消費者研究における現象学的アプローチを用いた研究といえる(Holbrook & Hirschman,1981;Belk & Sherry & Wallendorf,1988;Holbrook & O'Shaughnessy,1988;武井,1991a.b.c.)。

その他、対話過程において相互作用的なコンテキストを通して、家庭内の親子関係(高&廖,2004)や、教育現場における教師と生徒との学習プロセスなどを検討する研究(Sherrill,2003)などもある。これらの研究は、主体対象に意味や価値の問題が含まれているエピファニーを注視し、研究者が自らの経験を内省しながら対象を内面から把握することで、その意味と価値を理解するという解釈的現象学アプローチを応用している。

そこで、本研究では、社会科学の分野に適用可能性が高いと考えられる解釈的現象学は、人それぞれに固有の日常的体験を踏まえて、社会を社会的体験の領域と様相、および意味世界として理解する現象学へのアプローチの一つであるとの認識に立つ。ここでいう社会現象とは、人間と社会との無数のエピファニーによって再構成される物事であると考えられる。

2.2 解釈的現象学による方法

解釈的現象学に関わる研究方法について、ここでは1)構成媒介、2)社会文化背景との関係、3)分析方法のステップという三つの側面から検討する。

2.2.1 構成媒介

解釈的現象学においては、研究者は人々の生活様式などの諸現象を再構成するため、社会生活のある局面に立ち入り、対話者間の相互作用過程における記述された「エピファニー」を理解しようとする(Denzin,1989)。即ち、研究者が単なる経験内容の言葉を分析するわけではなく、経験内容の意味を忠実に再現するために、発話者によって、記述されるコンテキストに浸透して理解者としてのスタンスを貫くのである。

Sherrill(2003)は、学習現場で教師と生徒とのコミュニケーション過程と内容を検討する際に、解釈的現象学における構成集団概念を提示した。そこに含まれる集団単位とは、「教師」、「生徒」、「研究者」と「コミュニティの場」であった。そこで、本研究は、それら互いの関係を、「発話者」、「研究者」、「コンテキスト(context)」に大別し、それらを媒介する諸要素を捉えることを目指す。その構成と関係を図1に示した。

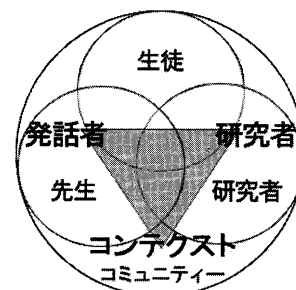


図1 現象構成と関係

2.2.2 社会文化背景との関係

解釈の対象となる記述内容には、単一もしくは複数の意味が含まれている。その中に発話者の意図した内容、歴史的状況の中に、物事の受け取る意味、伝統、是認された意味、および、研究者などが抽出した意味などである。即ち、意味は、歴史的、文化的、社会的と存在的な背景に関わる経験過程の中に、人々

が意識して構成するものである。現象学の分野において、意味を構成する意識体験のあり方は「志向性」と呼ばれる。第2.1節で述べたように、現象とは記述された「エピファニー」における人々経験過程からの志向性によって再構成をしようとするものである（図2）。（Denzin,1989; 武井,1997; 蔡,2000）

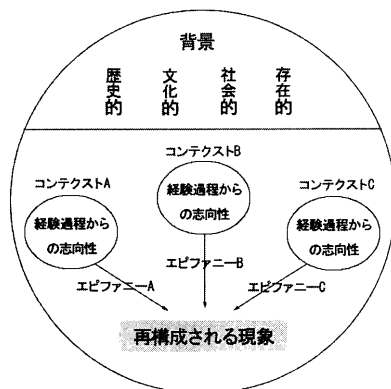


図2 現象構成の概念

2.2.3 分析方法のステップ

Denzin (1984a) は、物事を理解するために、次のように九つのステップが示した。1) 相互作用的なテキスト (interactional text) を収集する, 2) 完全なテキストを全体的に呈示する, 3) テキストから複数の経験的単位 (experiential unit) またはエピファニーを引き出す, 4) それぞれの単位として記号学あるいは解釈的な分析を行う, 5) 単位についての解釈をベースに, テキストに対する参加者にとってのニュアンスを解釈する, 6) テキストに対して操作的解釈 (working interpretations) を行う, 7) テキストと経験的単位との解釈を照合する, 8) テキストの全体的なニュアンスを把握する, 9) テキストに対して新たなニュアンスを拡大し, 多重的な解釈の可能性を呈示する。ここでは、上述の概念に基づいて、本研究が用いる「解釈的現象学」へのアプローチに関する分析手順を図3に示した。

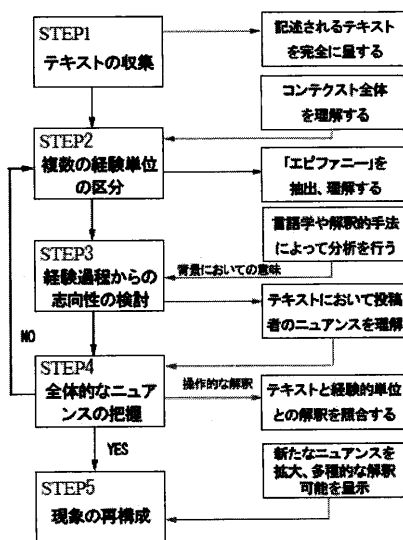


図3 解釈的現象学における分析手続き

3. 現象へ接近するツールとしての掲示板

本研究では、掲示板に書き込まれたテキストを通じて、語られた文脈によって、社会的表象をあらわすことを試みる。場所の感覚を提供する掲示板は、物理的に離れている人々を結びつける機能を持ち、集団としての所属意識を高めている。また、ほかのコミュニティー・ツールより、掲示板ジャンルの区分が明確であるため、ネット社会に立ち寄ってくる人々が容易に自分と同じ背景（世代、性別、同性愛など）や趣味（ファンクラブ、スポーツ、美容など）の仲間同士と出会い、積極的にディスカッションを行える。そして、それに対して、掲示板に通う人々が自らの生活経験を通してさまざまな体験や認識（イメージや意識、世論など）をあらわすため、社会的表象に関わる諸情報や個人的な意図がよく開示されている（Hagel III & Armstrong, 1997）。ネット上においても、現実世界のように、多様な社会的表象が、コンテキストを介して現れるものと考えられる。

3.1 調査研究の概要

掲示板で多くコメントが寄せられ、高い人気が集まる話題には、それに強い関心を持っている人が多いことを示している。社会現状と生活場面において人々が注目している物事であると考えられる。そこで、本研究では、それぞれの地域でどのような話題内容に、より高い人気が集まり、多くのコメントが寄せられるのか、また、その中で人々に当てられる焦点が何であるのかを検討し、概念化することを目指す。本研究では、前述の解釈的現象学におけるプロセスを援用し、掲示板における話題ジャンルを一つの「場」とみなし、投稿者らが自ら生活経験を通して浮かび上がって語られた経験内容の「エピファニー」を抽出、理解することを試みるのである。そして、そこに内包される社会的な意味現象を検討する。

3.2 操作的解釈の枠組み

次に、「エピファニー」を抽出するため、「操作的解釈」について整理しておく。Denzin (1986b) は、アルコール依存に浸る者の生活場面を考察、再現する際に、「時間軸マッピング」(temporal mapping) という概念を提示した。即ち、語られる出来事について、研究対象の立場を立ち、関係する場所や人物及び内的状況を含め、出来事を考察し、読込もうとすることである。そこで、本研究では、掲示板に記述された経験的信息を用いて、経験者によって語られる事実ないし出来事における 1) 場面：語られる経験内容の状況, 2) 個人的な感情表現や意識：状況において、話し手に生じる感じ, 3) 最終行動の目的あるいは意図：状況を方向づける、という三つの要件を指標として解釈を行う。要するに、「何か発する」、「何か感じる」、「何か起こす」という点に注目して、操作的解釈を行い、個人的な経験データをもとに同種のテーマ、あるいは類似経験のコンテキストを集散的に検討する。つまり、同じテーマにおけるそれぞれ経験の意味をデータの塊として整合的に理解することによって、社会における全体像を得ることを試みるのである。

3.2.1 分析例

表1に挙げた分析例によって、テキストの分析テクニックを整理しておこう。以下には、臨床心理学の研究方法に従って、掲示板に書き込まれた個人的な経験内容を扱う。まず、語られた経験内容に関わる「人物」、「出来事」と「人物と出来事との関係」を明確にする。次いで、第3.2節に三つの解析指標を用いて、解釈を行う。この経験データには、ドメスティック・バイオレンス（DVを略称）の被害者が夫に暴力を振るわれる情景、その時の自らの心境、そして、その後の決断の様子が詳しく記述されるとともに加害者の特徴が描かれている。

3.3 具体的手続き

本研究は、中国大陸と台湾における「YAHOO」掲示板を通して、ネット社会の生活者らに語られた日常生活のさまざまな出来事に関するテキストを収集した。収集期間は、2004年9月から2005年2月までの半年間である。毎月コメントの返信数が上位100位にランクされたテキストを収集した。多く反応を引き起こして盛り上がった投稿コメントを取り扱った

め、収録投稿数は、中国大陸・台湾をあわせて1200件にのぼった。続いて、その中から掲示板のジャンルごとにネット生活者らがより高い関心を持っていたり、人気を呼んだ話題がどのような内容であるのかを考察した。なお、最も人気が集まる話題については、当時の社会現象と生活場面において、人々が注目、関心を持っている物事であると推測できるため、その投稿内容のテキストに焦点を当てて検討した。

4. 結果と考察

まず、それぞれの地域における投稿の概略を述べ、両社会で、最も高い人気が集まった話題・「出会い・男女関係」についての投稿を分析・解釈し、それに関する社会的表象を比較しながら論じる。

4.1 投稿内容の概略

投稿のジャンルによって、高い人気が集まる話題別を検討するため、両社会の話題別の投稿数と当該ジャンルに占めた割合

表1 テキストの分析例

【セッション1】経験内容の枠組み	
(1) 人物：家庭内暴力の被害者女性と加害者の夫	
(2) 事件：25年間結婚生活の中に夫の精神的、肉体的な暴力を耐えてきた女性の経験	
(3) 人物と事件との関係：DVの特徴または被害者、加害者が起こる感情とその後の行動	
【セッション2】経験内容の解釈	
テキスト	解釈
経験内容パラグラフ1: (略) 成人してやっと 自分自身がみつけた職に就け・・・夫と出合った・・・私には 結婚を考えている人がいた。夫と同じ職場！・・・夫はそれを知って 私をく横取りした形になった①。今思えば そもそも そんな強引な相手だった事に問題はあったと思う②。「別れたい」と言う 「なぜなんだー！」と怒り・・・聞き入れないとビンタ③。それも 私の洋服を全部剥ぎ取り 逃げられないようにして④・・・私が諦めると「ごめんね・愛してる！愛してるから言うんだよ⑤」と・・・毎日毎日 その繰り返しだった⑥。	(1) 場面：夫の暴力は結婚前に兆しがあったこと。 (2) 感情表現と意識：暴力の兆しがあったことに、今気づいた②が、そのときにそれが夫の愛であることを信じていた③。 (3) 起こった行動：加害者の肯定的な側面に絆を感じ、夫を受け入れた。 *加害者は、 ⇒嫉妬心が強い① ⇒暴力を伴い、人の行動を制限する② ⇒暴力を振る事実をねじ曲げる③ ⇒懺悔して同情を寄せる⑤
経験内容パラグラフ2: 10年前、(略) (私に一言の相談も無く) ある地方に転勤。家族には有無を言わず同行させた①。ある日、ベロベロに酒をまおり 私に「駅まで迎えに来て～」とラブコール。(略) 家に帰ると、子供達の勉強机が(転勤により新しく買った) きていて それを見てカッとなった②か、二階で洗濯物をたたんでいた私の所へ来て凄顔で「オイ！こらー！俺様は亭主だぞー！」③と言うや否や私に襲い掛かり髪を鷲掴みにして(略) 二階から引き摺り下ろし(略)「ごめん・僕を殴っても良いよ」と(略)そして夫が「一生かけて償う義務がある」と思ったから・・・5日後 夫が会社を休んで家事をしている事も考え 退院すると、その夜からセックスを求めてきて④・・・痛みがあるにもかかわらず 拒否すら出来なかった自分自身が情けなく・・・⑤	(1) 場面：子供の勉強机購入を告げなかったことだけで、転勤の相談もなく、職場の人間関係の行き詰まりのためにお酒に酔った夫にひどく暴力を振るわれて入院した。 (2) 感情表現と意識：暴力が続いている間に示された優しさに魅せられてしまう自分は嘆かわしかった⑤。 *加害者は、 ⇒優位性を強調する、自己中心① ⇒感情の波が大きく変化する② ⇒爆発的な暴力を振るう後、優しくなる、親密な関係を求める③
経験内容パラグラフ3: 夫は「確かに暴力はいけなかもしれないけど、暴力振るわれるには振るわれる理由があるんだよ①」と・・・あの時 私が夫を「傷害罪」で訴える事も出来た。でも子供の父親を犯罪者にすることは出来ない・と断念した事が 結局 仇になった・・・②そんな我慢を続けている私に4年前「妻が夫の言う事を聞かない」という理由で「離婚調停」③!? (略)・・・その際私が「子供が 大学に入るまではこのままで・大学に入って成人するまでの間に 夫婦としてやれるかどうか 見極めたいと思います④」と・・・そして今 私は 夫と 家庭内別居。(略)	(1) 場面：子供のために暴力で夫を訴えることをやめたが、理不尽な事で夫に離婚を求められた。 (2) 感情表現と意識：人情の絆を感じ、自ら犠牲となった⑤。 (3) 起こった行動：夫を憎んでも、別れを勧められても離婚せず。経済的、世間体のために子供が自立できるまでは暴力をふるわれる生活に耐え続けようとした。 *加害者は、 ⇒自分の行動を他人のせいにする、自分を正当化する① ⇒理不尽な事で相手を非難する②

テキスト分析例の出所：「モラル・ハラスメント被害者同盟」<http://www.geocities.jp/moraha>

を表2に示した。

毎月返信数TOP100に達した投稿内容を見ると、中国大陸では、幾つものジャンルがある中で、全体の6割が『出会い・男女関係』に集中した。一方、台湾では幅広く、いろんなジャンルに人気分散しており、『出会い・男女関係』、『ビジネスと経済』と『政治』のそれぞれが約2割の返信を集めた。以下に、両社会における投稿の特徴を具体的に検討し、それぞれの地域の投稿者がどのような話題に興味を持っているのかをみてみよう。

表2 投稿ジャンルの割合と投稿数

ジャンル項目	中国大陸	台湾
A. エンターテインメント	13%	17%
A-1. コミック・アニメ		12
A-2. 映画	15	4
A-3. 音楽	11	35
A-4. 芸能人・タレント	26	50
A-6. お笑い	23	1
B. スポーツ・レジャー	無し	6%
B-1. スポーツ		25
B-2. 自動車		10
B-3. 旅行		1
C. 出会い・男女関係	62%	24%
C-1. 恋愛	143	115
C-2. 結婚	231	28
D. ホビー	無し	3%
D-1. オンラインゲーム		16
E. ビジネスと経済	7%	24%
E-1. 株式		98
E-2. 雇用		19
E-3. 保険		5
E-4. 職場	43	20
F. 生活と文化	4%	1%
F-1. 年中行事	8	3
F-2. 海外生活	13	
F-3. ニュース・時事問題		1
F-4. グルメ	5	7
G. 家庭・住まい	1%	1%
G-1. 不動産	6	3
H. 健康と医学	無し	2%
H-1. ダイエット		10
H-2. 病気・療法		3
I. 芸術と人文	13%	無し
I-1. ネット小説	76	
J. 政治	無し	23%
J-1. 軍事・外交		14
J-2. 選挙		78
J-3. 政党・団体		46

無し:ランクされてなかったまたは設置されないジャンル

4.1.1 異なる話題内容

まず、台湾でランクされてなかった『芸術と人文』が、中国大陸では人気を集めている。その内容は創作オンライン小説が中心である。創作のもとになるアイデアや、自分の主張を表現する意欲をみたとすかのように、新たな文学メディアであるネット小説が流行しているためであると考えられる。特に家族の絆と愛というテーマは高い人気を集めた。

一方で、中国大陸でランクされなかった娯楽や、健康に関わる『スポーツ・レジャー』、『ホビー』および『健康と医療』のジャンルについては、台湾で興味を持っている人が多かった。その内容は、主に野球ファンの応援、自動車の価格、技術や改造、多人数参加型オンライン・ロールプレイング・

ゲーム (Massively Multiplayer Online Role-Playing Game, MMORPG) のバーチャル通貨の取引情報、あるいは、ダイエット方法と民間療法をあげることができる。

4.1.2 言論自由の弾圧

中国大陸でランクされていなかった『政治』が、台湾で高い人気と示した点は、目を引く。中国大陸で人々が興味を示さないのではなく、中国大陸の「YAHOO」掲示板に設置されないコーナーであるのだ。検索サイト・中国大陸の「Google」で『政治掲示板』というキーワードで検索してみると、その結果、政治に関わるコミュニティ・サイトは政府関係機関または学校機関に限定されていることが明らかとなった。これらの政治的なコミュニティ・サイトは言論を統制しやすい、つまり、発言者らをロック・オン (lock on) しやすい「場」に設置されているのである。「YAHOO」のように誰でも容易に立ち寄ることができる公開のウェブサイトでは、政治に関する話題は禁じられているのであろう。

4.1.3 共通話題の特徴

また、両社会ともにランクされたジャンルに着目すると、『エンターテインメント』、『出会い・男女関係』、『ビジネスと経済』、『生活と文化』と『家庭・住まい』を挙げることができる。

(1) 類似点について

両社会の内容的に、最も類似点が多かったのは以下の三つのジャンルである。一つ目は、『エンターテインメント』で、最新芸能情報が主としてやりとりされ、人気歌手、俳優、新譜や映画などについての評価や主張がやりとりされている。今ひとつは、『生活と文化』である。収集期間が年末年始であり、最も重要な年中行事が行われたことより、内容としてはお正月に関する風習と習慣、お正月料理と調理の豆知識、または、海外での帰省子女の心境などが多く記述された。また、さらに『家庭・住まい』では部屋探しや賃貸情報の掲載が主であった。

(2) 相違点について

一方、両社会間で内容に相違がみられたのは、『ビジネスと経済』と『出会い・男女関係』であった。『ビジネスと経済』では、上司、同僚と部下との付き合いや、社交のテクニックに関するアドバイスを求めるという点については、両社会とも共通の要素が多かった。ただ、台湾では職場のテーマより、人気を集めるのは株式投資であり、株式市況解説、株価相場動向の分析レポートや割安株取引等、各種の投資情報が満ち溢れていた。これに対し、中国大陸では、株式投資者の数は、上海・深セン両株式市場の取引口座が計6500万件以上、1口座当たり3人とみても、株式投資者は総人口の20%に満たない。中国大陸の株式市場とマクロ経済の発展が連動しないのは株式市場の投資者が総人口に占める割合の低さのためである (人民網, 2005)。そのため、株式投資に関する話題がほとんどランクされていなかったであろう。

4.2 現象の理解と解釈

さて、『出会い・男女関係』は、両社会とも最も高い人気

集まったジャンルである。ただ、それに関して示された社会的な表象については、明確な相違点を見出すことができた。以下に、両社会での男女関係に関わる社会的現象を検討してゆく。

表2のようにジャンル項目C『出会い・男女関係』における各話題別の中で【恋愛】、【結婚】に関する話題が多くやりとりされた。本研究は、【恋愛】全258件、【結婚】全259件のテキストに記された経験データ⁽⁶⁾を個々に検討し、第3.2節に提示した解釈を行う三つの要件指標にてらして、各コンテキストの「エピファニー」を理解、解釈する。さらに、第2.2節に述べた解釈的現象学における分析手順に基づき、両社会の男女関係に関わる社会的現象を探究する。

4.2.1 【恋愛】について

両社会とも約7割で「セックス」をテーマとして議論をたかかわっていた。「性」と愛に関わる心理的葛藤が語られた場面が多かった。

(1) 中国大陸で「結婚で押しつけられる貞操観」の現象

性は大切な人に守って捧げるモノという「貞操観」が根強い。この性的な規範には、男性には適用されず、女性にのみ押しつけられる。結婚前に性的関係を持てば幸せに辿りつけないという考えが一般的に定着している。

【経験データ C1-034】

今付き合ってる男と性的な関係を持ってた…でも、将来の結婚相手が彼じゃないなら…幸せな生活が送れるかなあ…夫に軽蔑されたらどうしよう、と考えると後悔…！でも、今の彼が本当好き…あれを断って別れられるのも嫌。今の彼と結婚するしかないかもしれない

【経験データ C1-107】

昨日彼女と別れた。4年間付き合ってた…長かったな。愛しているけど、彼女の過去はやっぱり気になって、彼女が処女ではない…私以外の男と関係を持ってた…ただ処女ではない彼女を捨てた僕は悪い…？でも、気にならない男はいないと思う

男女問わず、愛する人に「性」を捧げるのは幸せの重要な構成要素であることを意識しているため、「結婚」が「性」をめぐる経験によって大きく左右される。中国大陸社会で性は女が男に捧げるモノであり、一緒に人生を歩む結婚相手のために守るべきだという観念が強い。そうした幸せをつかむ条件は「愛」だけではなく、男との交渉の手段として自らの高い精神性と忠実さをアピールできる「性」も含まれる。語られた経験データから見ると、中国大陸社会では、「女性の幸せ＝結婚」という考えを持つ女性が多く、幸せをつかむ、夫を喜ばせるために、自ら情動的な本能を犠牲にして男性中心の見解を受け入れた。つまり、「性と愛の一体化」という常識より「性と結婚の一体化」という見解が社会的に成り立つ傾向があった。

(2) 台湾で「性的経験は女性の価値の尺度」の現象

中国大陸男性より台湾男性の方が比較的に開放的な考えを持っているようである。結婚前の性的な規範に対してより寛容な態度を持っている。しかし、「性的な本能」が決して男女平等に扱われることはない。男性にとっては、「性」が本能的なものであり、生理的なニーズがあるため、愛と性は一体でなく

てもよいとの社会的認識が認められた。

【経験データ C1-014】

男って、彼女が自分以外の男は何人まで許せる？時代もう変わったと分かってるけど、でも、何人ぐらいまで許せるって、やはり男同士からの本音が知りたいなあ。性的な経験が多い女がイヤだな。そんな女が愛のないセックスでも平気に楽しんでるって…。私は女の年をもとに数を決める…。彼女が今28才で二人だけなら…（やっぱ想像したくない！！）でも、彼女が今まで何人と付き合ってたのかはまだ知らないし。彼女との関係って、一応、未経験！！もしかして彼女は処女…それなら、ラッキー！！

【経験データ C1-059】

この前彼女と別れた！！理由って、ほかの女と…。本気じゃないし、ただ遊びなの！男は元々そんなもんだな！結婚前に彼女もくれないし…男って生理的なケモノ。女はなぜそれを理解できないの？男の本能を別れる理由にするって、彼女はほんとーにわがまますぎるじゃない！

台湾男性は「愛と性の一体化」ということを大体肯定している。つまり、セックスについては、結婚前か結婚後かということは、さほど重要ではなく、愛のあるセックスなら認められようだ。ただ、台湾社会が、「性」に対しての男性中心主義から離脱しつつあるとはいえない。台湾男性は女性の性的な経験の有無より、経験の多寡に拘泥している。それによって女性の価値を見定める傾向もあった。愛のために自分を捧げる女性が可愛らしいと台湾男性は思っている。それにしては、その愛を捧げられた唯一の男になりたいという気持ちは、中国大陸男性と変わらなかった。つまり、男性にとっては、「性」的本能は女性には認められず、愛のあるセックスだけが認められる。

(3) 両社会の比較

2005年に中国の天津にある8つの大学において、性に対してより開放的な考えを持つ大学生を対象とした調査によると、約6割の大学生（女性74.5%、男性54.4%）が婚前交渉に関して否定的な意見を示している（中新網、2006）。これに対し、台湾では、男女問わず、婚前交渉に対して5割以上が肯定的な態度を示している調査結果がある。しかし、その中には、「賛成しても自分自身と関わるならば別だ」という答えが25%以上あった。ちなみに、個人的には、性的に対する「認知」と「行動」の間に「under report」という不一致の現象が存在した（国家政策研究基金会、2001）。こうした結果を総合的にみると、両社会とも性的規範については、男女平等論を唱えつつも、女性が「受動」であらねばならないという考えが今日でも定着していることが分かる。

4.2.2 【結婚】について

両社会では、結婚について交わされた主なテーマが異なっていた。中国大陸では、6割以上が『結婚生活の疲れを如何に取るか』がテーマしてやりとりされていた。一方、台湾では、『結婚するかどうか』が中心であった。

(1) 中国大陸で「夫婦間での恋愛を喚起」の現象

経験データからみると、結婚生活を何年間か平凡に暮らして

から、「安らか」と「ロマンチック」のバランスがとれないと感じた女性が多い。

【経験データ C2-197】

夫と結婚して10年目になった。近所でも仲良く、評判のよい夫婦だと思われてる。しかし、最近夫婦生活に結構疲れた…なぜなら、最初に思い浮かんだのは更年期障害かな…でも、30代半ばの私はまだまだよね。夫の問題だとも思ってない…すごく温厚で穏やかな人。家事、子育ても手伝ってくれるし。でも…最近夫との間に何か足りないと感じた…恋のワクワク感はほしい…昔付き合ったときに戻りたい…

【経験データ C2-207】

結婚って、恋人の愛情から家族の愛情に移行するということを実感!!前夫の一言で結婚はそういうものだやと分かった。「婚姻は幻想の終わり」って。最初はそんなことをいう夫に批判的だったけど…今はその通りだと思うわ。結婚前か新婚のとき、前向きの期待、理想(幻想?)はいっぱいあったけど。今、生活の現実しか残らない…。愛がないわけじゃないが、家族愛の平凡の幸せなんてぬるい…ね。今、子供がまだちっちゃいし、夫婦二人で子育てや仕事など、いろんなことが話し合えるけど、将来子供が独立して、夫が定年したら、夫婦二人で毎日一緒って…そう考えると、これから夫婦で人生2回目の恋を築く方法を見つけなきゃ!!

前述したように「女性の幸せ=結婚」だと思っている女性が少ないわけではない。ところが、実際には「結婚が恋愛の幸せの延長線」という説、「女性の幸せ=結婚」の神話が崩壊することにある。これについては、ある意味で幸せがなくなることを感じた女性も多かった。また、男女問わず、愛を感じる要素の中にお互いのコミュニケーション(言語的、性的)と、情熱は結婚の次第でだんだん薄くなることも感じた。

【経験データ C2-063】

結婚生活を人生に例えれば、今妻との間に「中年危機」がや々と来た!!最近夫婦の会話も少なくなるし、もちろん恋愛中と新婚の頃のあつい思いもなくなる。それを冗談で妻に話したけど。「もう若くないから」って言われたが、本当に年をとるともう恋を味わえないかな?【結婚20年目を迎える中年男性の悩み】

昔の中国婚姻関係とは、夫婦の愛情というよりも、一族や親のため、子孫を残すためのものであった(晨光,2005)。ところが、現在の中国大陸社会では、男女が自由恋愛によって結婚する。前述したように、幸せな結婚生活を迎えるために、女性が男性へ捧げるのは、「愛」だけではなく、純潔さを訴求できる「性」も重要な要素である。だが、婚姻は時間を経るにしたがって、興奮は冷めていき、またセックスの限界効用も下がっていく(晨光,2005)。それゆえに、中国大陸社会で、男女がその「性」に関わる心理的葛藤を越えた後、婚姻生活を営むため、再び「愛」を求めることにもどったのである。したがって、現在は「婚姻内の恋愛」を提起するのが中年および熟年に向かう中国人夫婦の大きな課題としてみなされている。

(2) 台湾で「晩婚化と非婚化への移行」の現象

【結婚】については、台湾では、男性が「晩婚化」、女性が「非

婚化」に移行しているが、その背景を読み取ることができる。

【経験データ C2-13】

女にとって、学歴の卒業証書より婚姻証明書は価値がある?最近親に結婚を迫られた!どんな高学歴で、高収入があっても、女が結婚しないと世間体がわるいと説教された!結婚より女の価値を高めることはいっぱいあるし、特に今の男は頼れるわけでもないから。結婚は一生の保障という話はもう成り立たない。幸せを感じない結婚より、時間的、経済的な余裕を持って、一人の楽しむ生活を送るのが幸せだ。

【経験データ C2-07】

今の時代では結婚より独身のほうが楽しいと思う。特に、女が結婚すると、より多くの責任が負わされる。単なる娘や彼女としての役割からほかの役割も加えてくる。もちろん男も同様に役割が増えてくるが、それは、ただ形だけだ。子育てや家事をにうのはやっぱり女だ。女にとっては、結婚するメリットがなかなかないね。

台湾女性が「非婚化」傾向になる理由は、独身時代の快適さである。つまり、自分なりに、自由な生き方を楽しみたいという女性の意識に加え、高学歴になった女性たちは、経済的に男性を頼る必要も少なくなっているのだ。また、結婚生活に入ると、女性は妻として、嫁として、母親としての役割を果たし、家事、育児などの負担も大きくなるとの意識も強く影響している。ほかの経験データからは、同棲が結婚とあまり変わらない上に、自分のペースを保てるというメリットもあるため、結婚より同棲を選ぶ女性が多くなっているようだ。さらに、妥協して自分の理想や望み通りではない婚姻関係を築くよりも、自由で経済的にも時間にも余裕のある「独身貴族」か、シングルマザーとして生きていきたいと意識している女性も増えてきた。

【経験データ C2-20】

結婚できない男っていつも性格が悪いと世間に格づけされる!でも、最近女が結婚しなくても、しっかりしているとか自立できるとか…新世代女性だからほめられる。結婚したくないわけではないけど。でも、自分より気が強い女性は、ヤダな…自分より学歴が高い女も…。やっぱり、男のプライドって許さない。

【経験データ C2-02】

中年男性の魅力って何?経済力、社会経験、女を可愛がる精神…。若いうちに束縛されたい男はいないと思う。自由な生活、好きな仕事、いろんな体験を若いうちに楽しむべきだ。中年になったら、また安定した結婚生活を送る。特に中年男性のほうが若い女にもてるから。

台湾女性の「非婚化」傾向と比べ、台湾男性はその「晩婚化」を示す状況が多くみられた。さまざまな経験データから見ると、男性が家族を持つべきということに対する世間のこだわりは、現在もそのまま変わっていない。結婚できない女は高学歴、高経済力であるというイメージが定着する一方で、結婚できない男は性格的に何か問題があるというイメージが抱かれていると考えられる。男性が「晩婚化」するのは、女性の経済的自立、男への「期待値」の上昇などという原因も重要だが、実際に「賞味期限」が短い女性と比べて、男性は年齢とともに経済力、社

会地位などが高まり、安定性を得るからこそ、若い女性に魅力だと思われることが多いのもその原因の一つである。そこで、若いうちに結婚する、あるいは、逆に独身主義を抱くという道を選ぶ男性は少なく、「晩婚」を楽しむ男性が多くなってきた傾向を見て取ることができる。

(3) 両社会の比較

両社会の間で【結婚】に対する着目点が違ったことは興味深い。2004年に中国大陸の北京、上海、広州、成都などの8箇所の大都市において20代男女を対象に「家庭、結婚」に関する調査があった(中国青年報, 2005)。その調査結果によると、20代の若者にもかかわらず、「結婚」に対して「人生の必至の道の一つ」(75.1%)、「一に従って終ればなり」(65.3%)などの伝統的な価値観を持っている人が多かったと示された。また、「人生一番幸せなのは暖かい家庭を持つである」と思う人は67.1%を占めた(中国青年報, 2005)。こうした結果を総合的にみると、結婚に対して中国大陸では、よりポジティブな行動への志向性があった。期待はずれか、冷たくなった結婚生活を、夫婦共同体として営むべき、「婚姻内の恋愛」という男女関係を再構築することで「結婚」を否定してしまわない。一方、台湾では、政府が実施した調査によって「シングル生活を楽しむ、独身主義を持つ」、「経済的な条件が満たされていない」という二つの原因が20、30代の男女が最も結婚したくない理由であった(行政院衛生署, 2004)。ちなみに、台湾で「結婚」を条件(例えば、自由を奪われない、経済的な保障があるなど)によって、はかっているケースが少なくない。「結婚」は夫婦二人のことというよりも、ある意味で個人的な「営み」としてみなされているのであろう。

5. おわりに

ネットワーク社会の進展によって新しい社会研究の可能性が開けようとしている。ネット上に書き込まれる、そして、そこで語られる物語は、鏡のように現実社会の人々の外的、内的な表象を映す。ここに、本研究は、コミュニティ・サイトにおけるさまざまな社会的経験に基づくテキストを通して、一種の社会的リアリティ、すなわち、日常生活のある場面と風景をあらわすことを目指した。本研究においては、研究方法として用いた「解釈的現象」のアプローチには、研究者が多様な視点で操作的解釈を用いることを強く提唱している。【恋愛】、【結婚】の分析事例を用いて、それぞれの男女関係に関わる社会的意識と表象を探ることを試みた。無論、ある社会的現象の全貌を解明するための積み重ねの一つにすぎないことは認識している。現象を解明するためには、研究者らが様々な角度から、ある出来事を検討し、それらによる知見を再構成することが必要である。社会的現象の全貌を探ることににおいては、パズルのように、ピースを一つ一つ組み合わせてその「ナゾ」が解けるのである。今後とも、ネット・コミュニティにおけるさまざまな風景を見、解釈を積み重ねて、社会的、経済的、文化的な側面に関わる多元的な現象を幅広く再現することに努めたい。そして、より明

確的な解釈を行う手順を構築するため、現象を再現するの諸手法を含め、総合的な検討を進めていきたい。

注

- (1) 厳密には中華人民共和国で中国語といえば方言や少数民族諸語も含む。ここで理解しやすいように外国の方が「中国語」を学ぶ時に使われる「標準漢語」を「中国語」と呼ぶ。
- (2) 現象学においてフッサールの用語である。自然的世界も文化的世界も一個の主観の私有物ではなく、多くの主観の共有物であることを示される。
- (3) さまざまに異なる生活様式の型を全て対等な人間の営みと考え、比較し理解しようとする態度あるいは立場。
- (4) 誰もが時間的に空間的に人と人とのさまざまな対応や相互行為を通じて体験しているパースペクティブとしての社会、いわば日常生活の現実。
- (5) キリストの生誕の際に、顕現日と呼ばれ、東方の三博士がキリスト生誕の地ベツレヘムを訪ねるのを記念する1月6日の祭日。
- (6) 経験データは、一人一人の投稿者が自らの経験談である。本文の経験データ内容は、多く人々に語られた経験談の中から例として取り扱われたものであり、筆者が訳したものである。

参考文献

- [1] 武井寿: 解釈的マーケティング研究—マーケティングにおける「意味」の基礎論的研究, 白桃書房, pp.155-205, (1997) .
- [2] 鄭秀娟: 台湾の文化市場における「日本」の歴史的構築, 思想, Vol.933, pp.268-287, (2002) .
- [3] 蔡昌雄: Zen Hermeneutics: Beyond the Postmodern Mind, 中央大学社会科学研究所研究報告, Vol.20, pp.177-183, (2000) .
- [4] Marlene, Z.C. David, L.K. Richard, H.S., 大久保功子訳: 解釈学的現象学による看護研究—インタビュー事例を用いた実践ガイド, 日本看護協会出版社, (2005) .
- [5] Denzin, N.K.: The Alcoholic Self, Beverly Hills, CA: Sage, (1985a) .
- [6] Hagel III, John and Arthur G. Armstrong: Net Gain: Expanding Markets Through Virtual Communities, Boston, MA: Harvard Business School Press, (1997) .
- [7] Sherrill, A.C.: A Pathway of Interpretive Phenomenology, International Journal of Qualitative Methods, Vol.2 (3), pp.1-43, (2004) .
- [8] Denzin, N.K., 張君玖訳: 解釈性互動論, 弘智文化, 台北, (1989) .
- [9] 陳秋櫻: 民族主義の性別意涵—以日據時代台灣島内民族主義為例, 国立中山大学政治学研究所碩士論文, pp.79-87, (2002) .
- [10] 高淑清 廖昭銘: 父母親職經驗之現象詮釋: 以家有青春期子女為例之初探, 應用心理研究, Vol.24, 117 - 145, (2004) .
- [11] E-ICP: 台湾消費市場に関する調査データ, (2000) .
- [12] CMDB: 中国市場に関する調査データ, (2000) .
- [13] 人民网, 经济证券版【報道】, (2005/3/23) . <http://www.people.com.cn/>
- [14] 晨光: 中国家族の市場化, 神田外語大学要紀, (2005) .
- [15] 中新網, 「大学生における性的な価値観の調査報告」【報道】, (2006/4/11) .
- [16] 国家政策研究基金会: 「e世代女性權益調查公佈記者會」【報道】, (2001/9/4) .
- [17] 中華青年報, 「新生代調查」【報道】, (2005/9/22) .
- [18] 行政院衛生署: 「衛生統計動向-人口與家庭」, (2004) . <http://www.doh.gov.tw/statistic/STbook.htm>